

2025年10月10日
人口減少アイデアソン中間プレゼン資料

第一次産業のDX化

石巻専修大学
経営学部情報マネジメント学科 3年

木村 唯利
千田 陸
早坂 匠瑛



目次

1. テーマ設定の理由

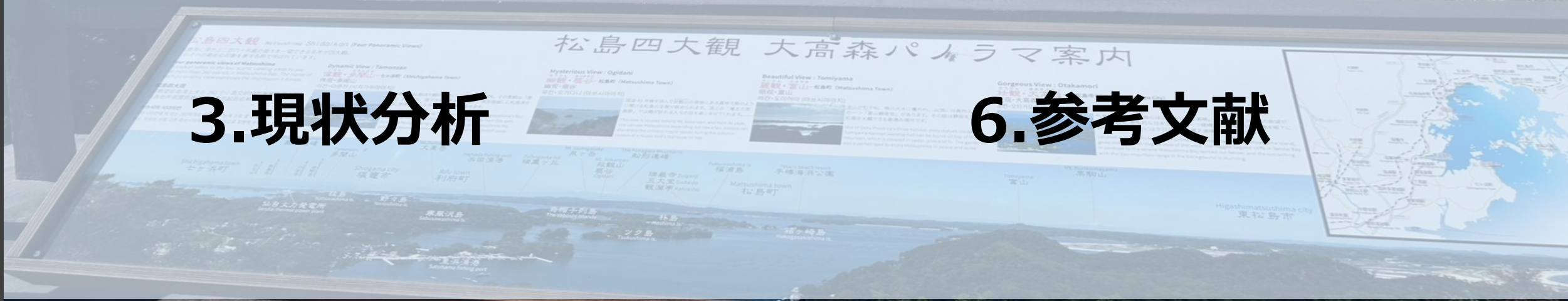
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

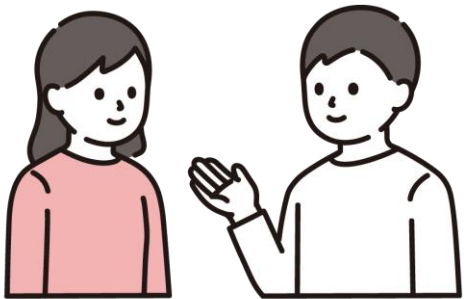
6. 参考文献



1. テーマ設定の理由

テーマ

人口減の町で若者が関わり続けたいとなる仕掛けとなる事業アイデアを考えたとき



圏域の第一次産業が盛んになって欲しい。

これらを踏まえて…

第一次産業のDX化というテーマで政策を考えていく。

サブテーマ

私たちは**学生スタートアップ**として、**第一次産業の担い手確保**での事業アイデアを考え、人口減が進む石巻圏域で、**なりわいをつくる**ための行政との連携案を提案します。

目次

1. テーマ設定の理由

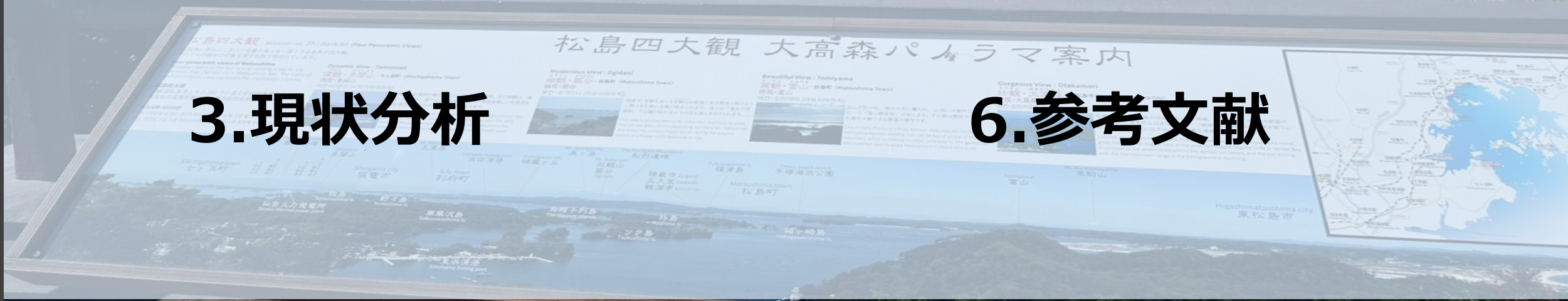
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

6. 参考文献



圏域の強み

漁業



農業

宮城県産「ササニシキ」



2kg



目次

1. テーマ設定の理由

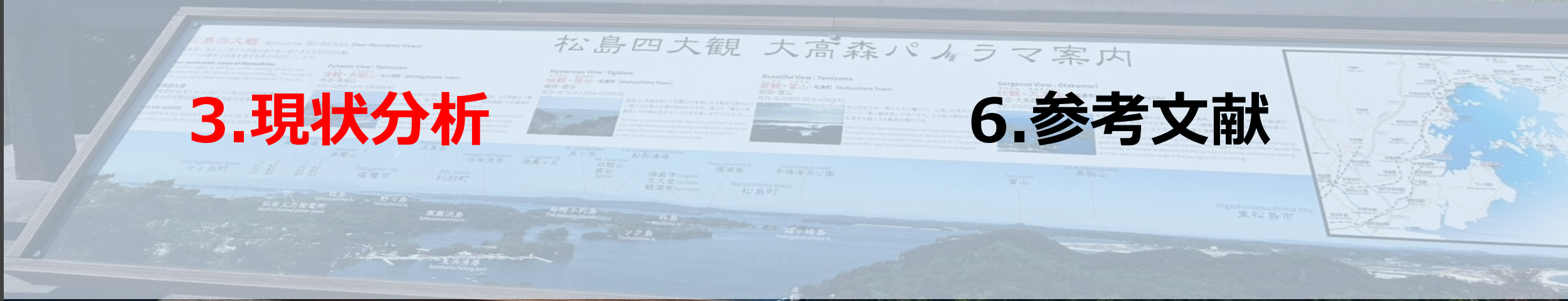
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

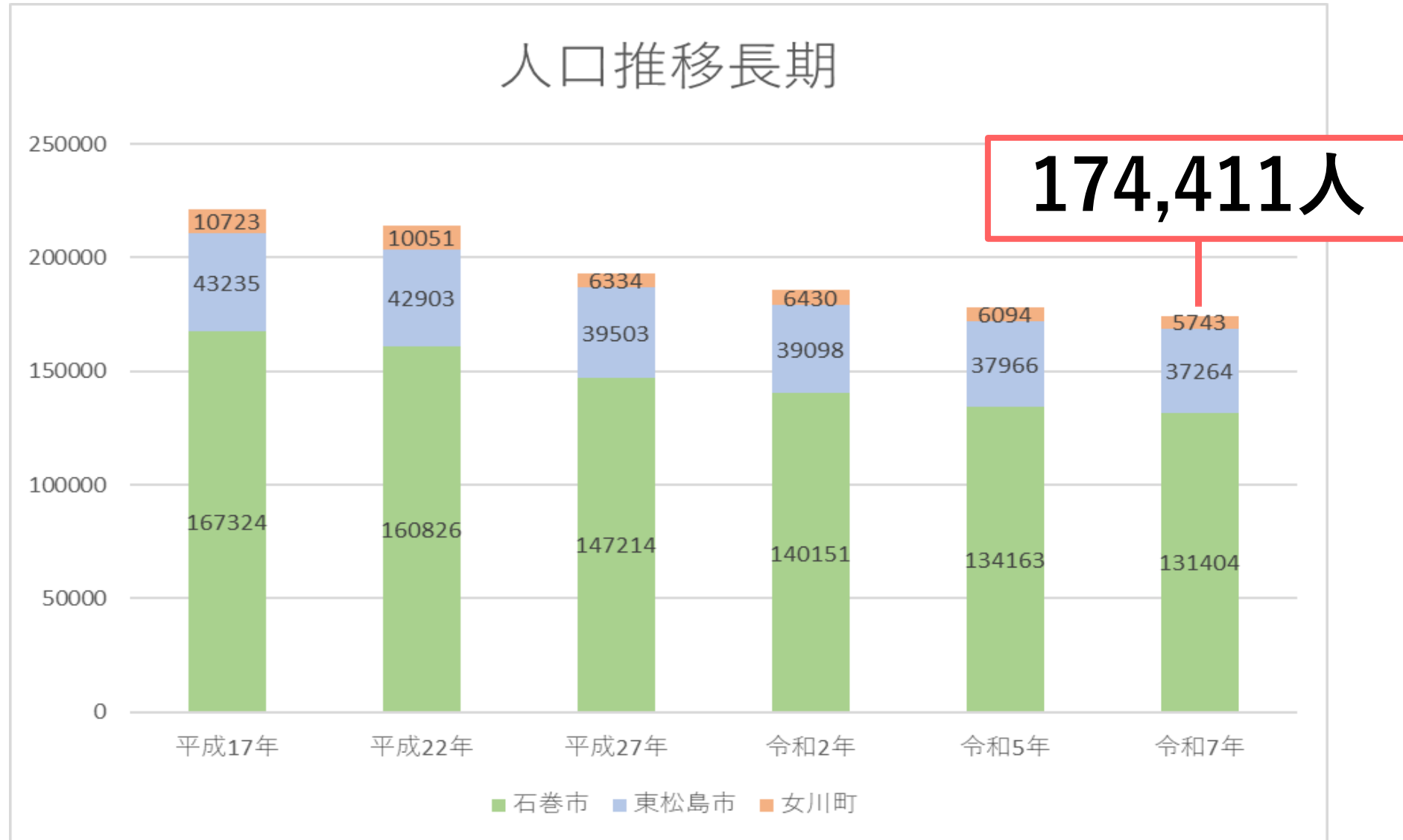
6. 参考文献



第一次産業に就職しない理由

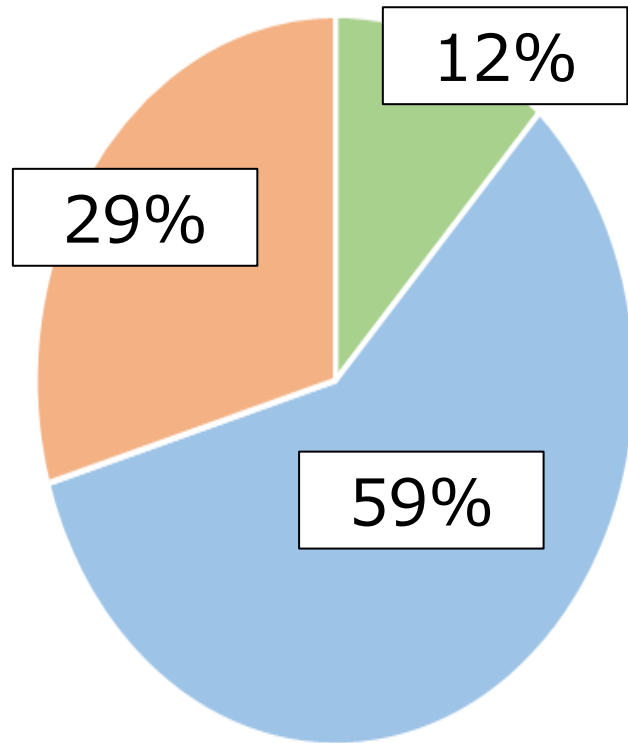
- ・農業機械や土地代など**初期投資が必用**
- ・**収益の安定性**が低い、初年度の収益が低い
- ・農業の情報の透明性が低いため**情報不足**
- ・定年退職がないため**将来の安定性に不安**がある

圏域の人口推移



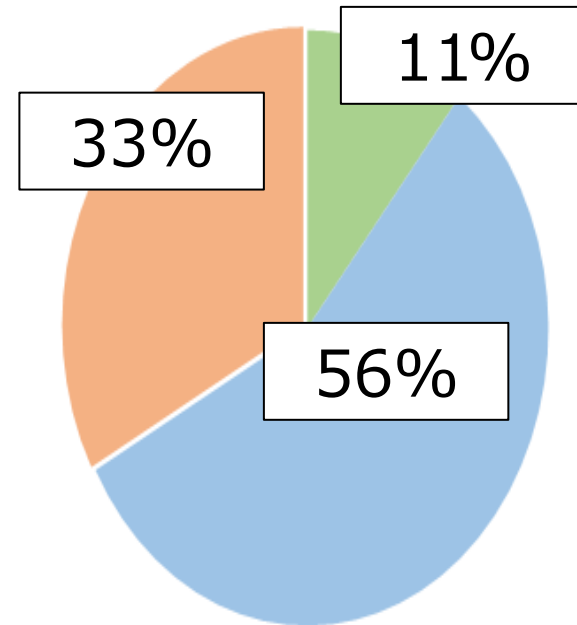
圏域の年齢構成

平成27年 年齢構成



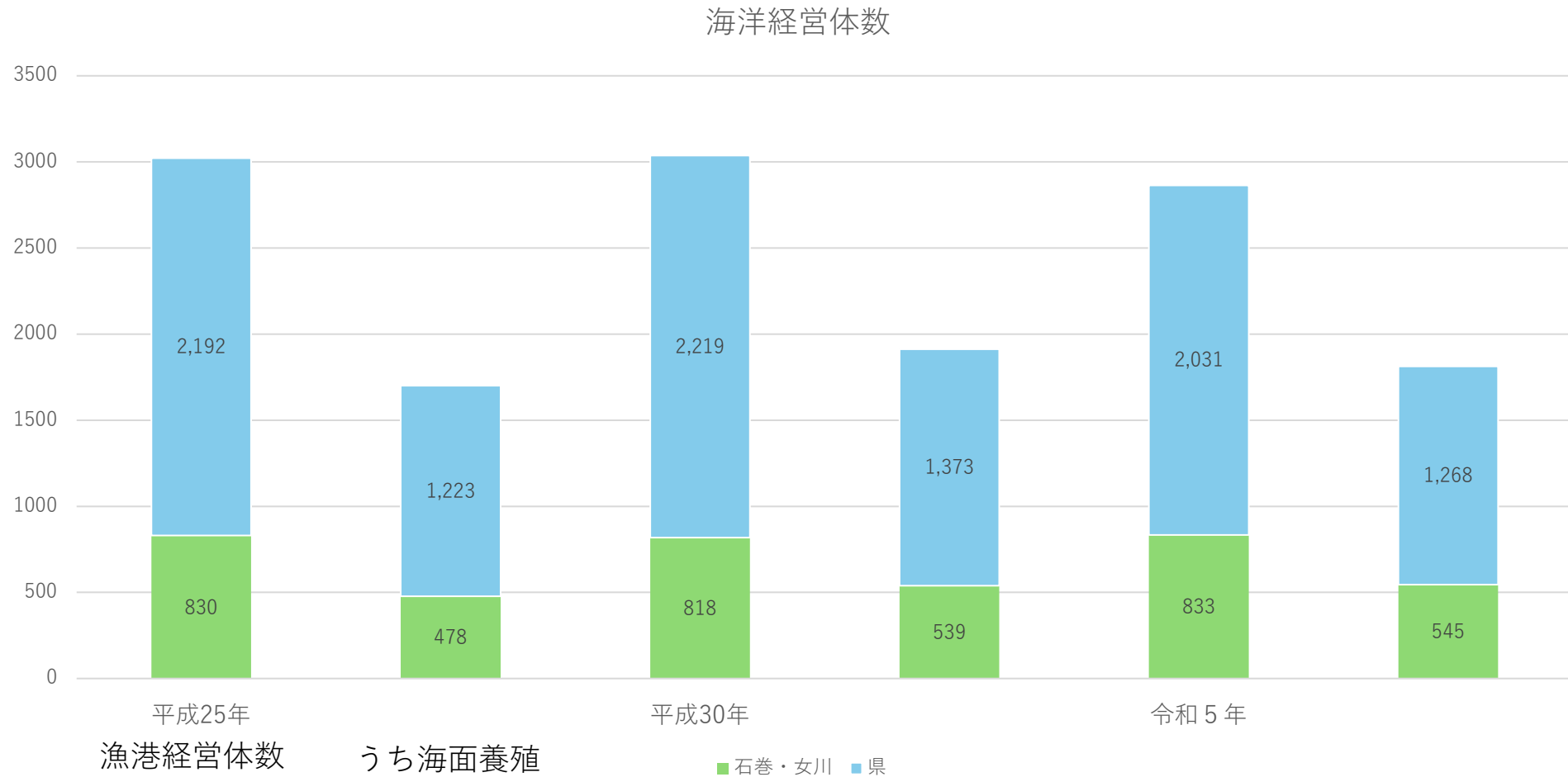
■ 年少人口 (15歳未満) ■ 生産年齢人口 (15～64歳)
■ 老年人口 (65歳以上)

令和2年 年齢構成

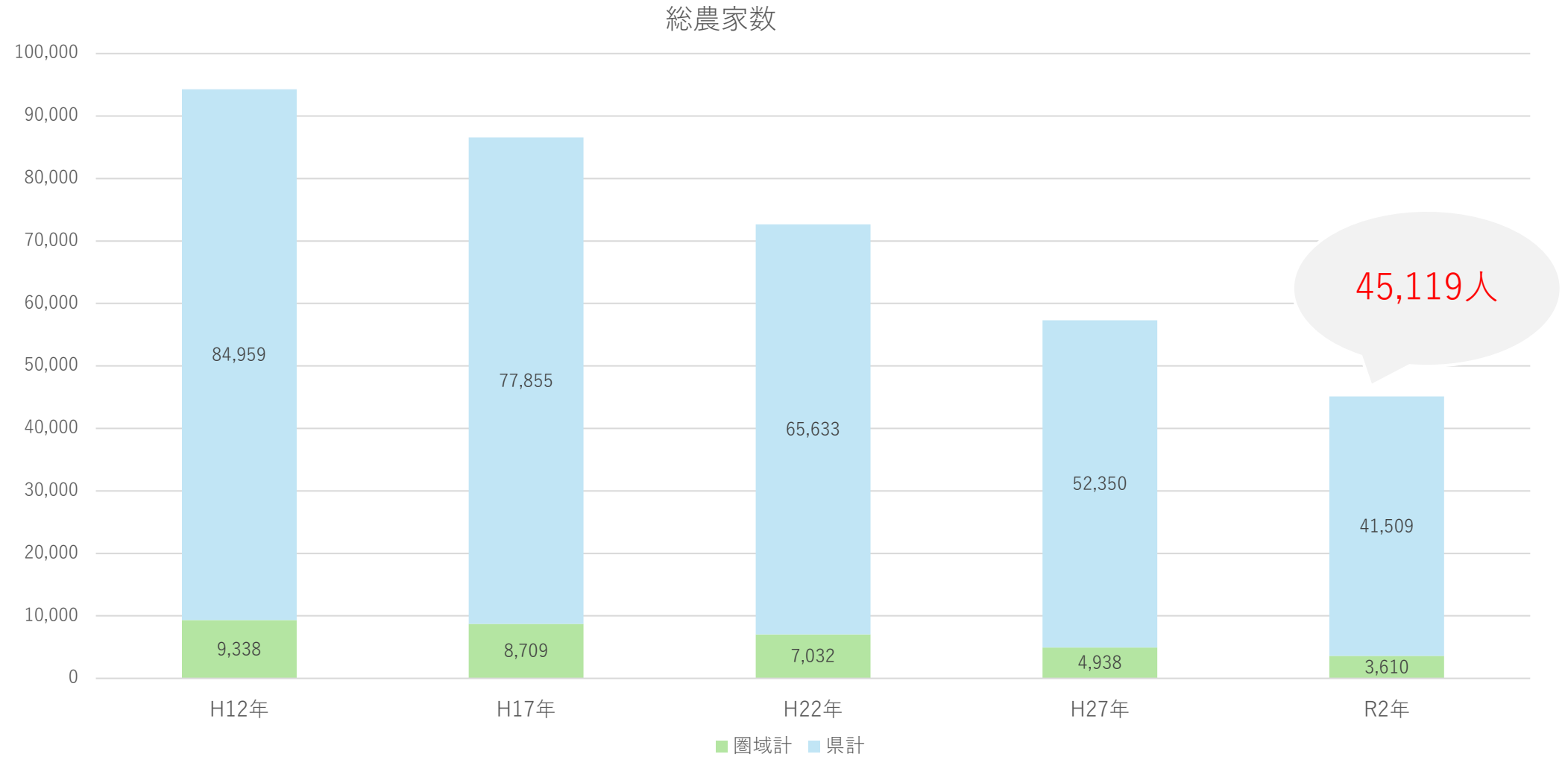


■ 年少人口 (15歳未満) ■ 生産年齢人口 (15～64歳)
■ 老年人口 (65歳以上)

年別海洋経営対数

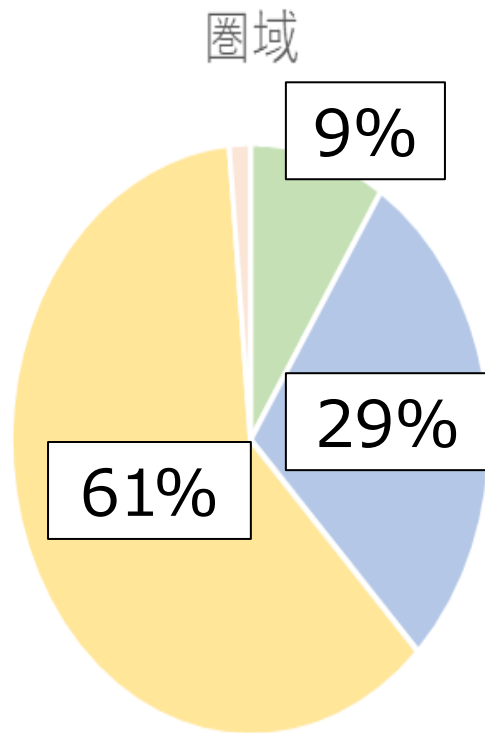


年別総農家数



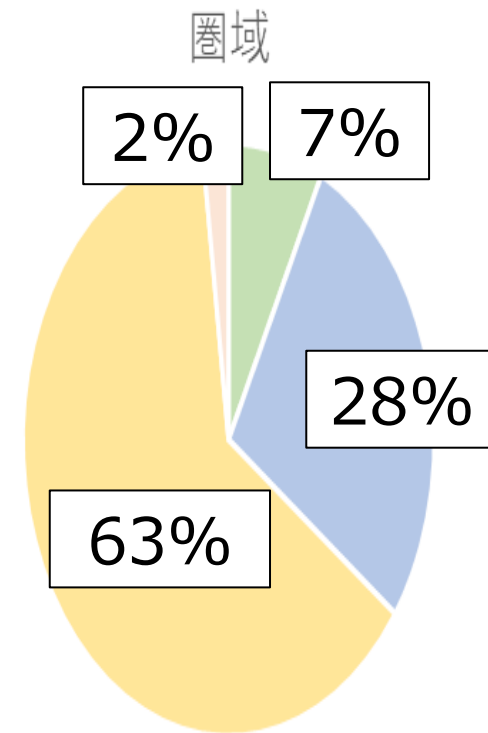
15歳以上就職者数

平成22年度



■ 第一次産業 ■ 第二次産業 ■ 第三次産業 ■ 分類不能

令和2年度



■ 第一次産業 ■ 第二次産業 ■ 第三次産業 ■ 分類不能

目次

1. テーマ設定の理由

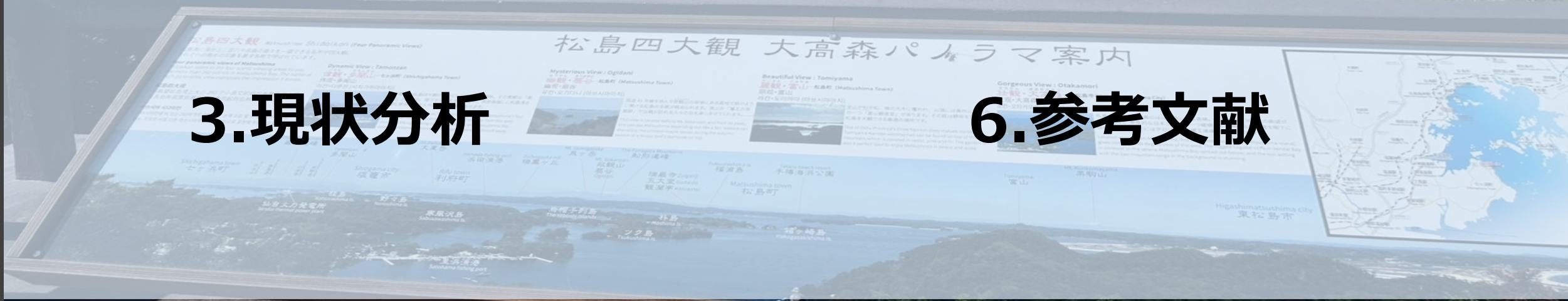
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

6. 参考文献

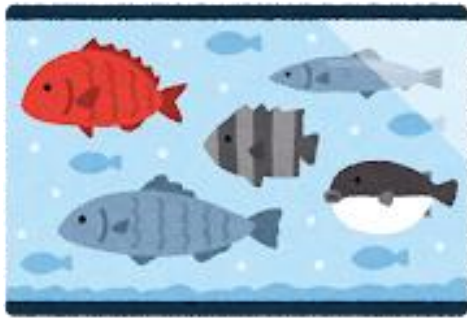


第一次産業のDX化(水産業)

気象条件を元に魚
の位置を予想

養殖の管理の
自動化

必用な量を必用
なときに最適な経
路で届ける



スマホで
完結

経験値の継承と省力化・
効率化



農業のDX化

水門管理**自動化**
システム

ITセンサー活用で
温度管理

流通事業者
間のやりとりの**デジタ
ル化**

省力化、生産性の向上、
流通現場業務の効率化

第一次産業のDX化実現のために

開発会社、JA、
漁協との連携

・・・個人では導入困難なDX化技術を、連携組織を通じて共同導入ができ、開発会社は、連携組織を通じて全国展開が容易になる。

DX機器導入へ
の補助金

・・・各自治体が地域の色に合わせた補助金の交付

目次

1. テーマ設定の理由

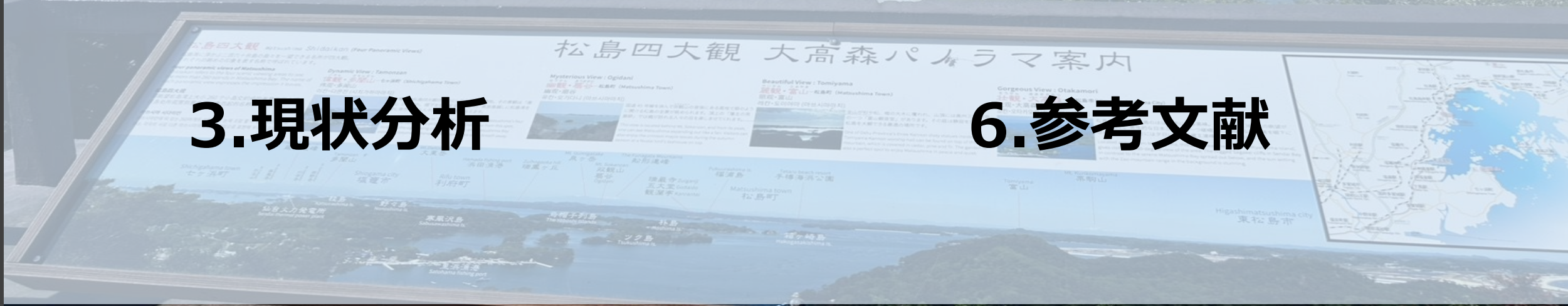
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

6. 参考文献



まとめ

テーマ

人口減の町で若者が関わり続けたいとなる仕掛けとなる事業アイデア



DXを導入することで、若者の就業者が働きやすい環境を作り、
第一次産業の活性化を実現する。

目次

1. テーマ設定の理由

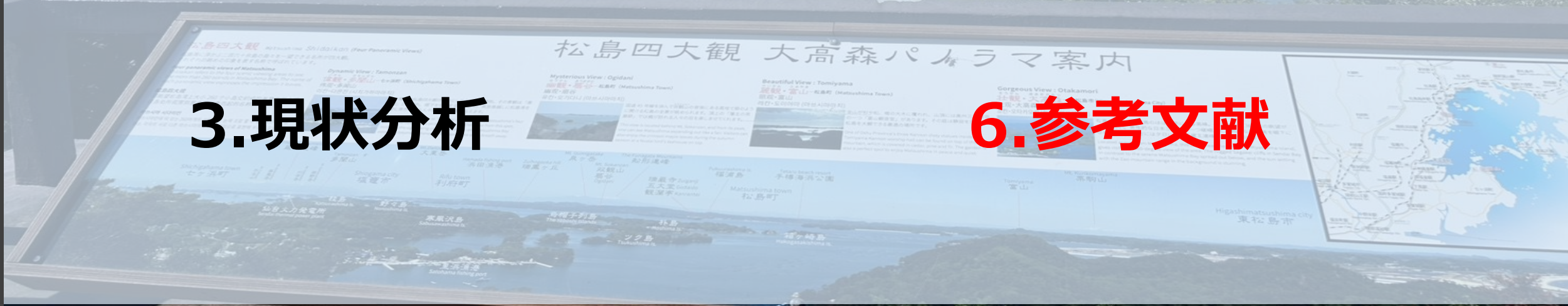
4. 政策提案

2. 圏域の強み

5. まとめ

3. 現状分析

6. 参考文献



「出典」

- ・農林水産省より

「<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/dxsub/index.html>」

- ・ITを利用した物流の効率化

「<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/dxsub/dxcase9.html>」

Q&A

1. Q.すでにフィッシャーマンJPなどで取り組んでいるのでは？

A.フィッシャーマンJPで行われている取り組みは、流通や養殖の生け簀の整備といったある程度フォーカスしたもので、全く同じものにはならないと考えています。

2. Q.この事業の新規性はどこに？

A.石巻圏域で行われている同じような取り組みは、私たちが調べた限りだと見つかりませんでした。また、技術の開発はされていますが地域自治体や、農家、漁師との連携は見当たらなかったため、地域と連携した産業ICTのモデルケースになると思っています。

3. Q.DX化したときの課題は？

A.プログラムの制度が確保できるまで、時間がかかってしまうことが問題だと考えています。また、必ずしも正確な結果が予測できるわけではないため、精度によっては、実用化が難しい可能性があります。

Q&A

4. Q.初期費用を負担するのは誰？

A.アプリ開発の初期費用は、クラウドファンディングまたは、テスト段階のソフトを買い切り式で、購入してもらいデータ収集と費用回収を同時に行う。または、そのどちらかを考えています。

5. Q.DXを進める人材確保はできそうか？

A.自分たちで探すのはもちろん、行政の協力を受けることも視野に入れています。

6. Q.外部(県外)の人を引き込むための取り組みが欲しい

A. 県外の人を取り込むことは、そこまで重視していません。主に社会減を減らすことと第一次産業の高齢化対策を重視しています。ですが、これらの政策を行うことによって雇用の創出につながり、結果的に県外からの流入が起る可能性があります。

7. Q. 若者がどういう角度から関わりたいと思うのかその部分をもっと詳しく知りたい

A.最近の若者は、第一次産業に新しい可能性を感じて関わりたいと思う人が増えています。